

早稲田大学 政治経済学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問は5。 政治と経済の融合が1題で、あとは政治が2題に、経済と社会保障が1題ずつ。 Iの問6は難問。○×を答える問題が多い。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	小泉内閣の政治 ～構造改革と小さな政府～	時事問題としての出題が予想されていた。問1～問5は標準的な問題だが、問6は馴染みのない問題であり、戸惑った受験生が多いはず。	やや難
II	政党と選挙	いずれも標準的な問題であり、取りこぼしは許されない。8は比例代表という別解もあり得る。問3のような○×を付ける問題では、より正確な知識が必要とされる。	標準
III	表現の自由と知る権利	国家権力の不作為を求める権利を「消極的自由」、作為を求める権利を「積極的自由」ととらえる考え方は、馴染みが薄く難しかったであろう。日本の情報公開制度は国民の「知る権利」を実現するためにあるのではなく、政府の国民への「説明」責任を果たすためにある。法律第1条にある。	やや難
IV	少子高齢化とその影響	問1「次世代育成支援」対策推進法は難しい。問2、問4①、問5の○×問題では、詳しい知識を必要とする選択肢が含まれている。問4②「経済連携協定」(EPA)、問6「構造改革特区」は、出題が予想されていた。	やや難
V	日本経済と景気循環	問2は消去法で解ける。問3②は戦後日本の景気変動についての細かく正確な知識が必要で、結構難しい。	やや難

[総合コメント]

いわゆる難しい問題に眼が行きがちだが、基礎的・標準的知識で解ける問題が過半数である。だから、そこで取りこぼししないように基礎をがっちり固めることが必要である。

その上で、過去の問題を解き、「ここまで出題されるんだ」と実感し、その出題された知識を教科書、用語集、資料集などで確認しつつ、基礎・標準の上に積み上げて行く努力が必要である。そこまでやるためには、社会の出来事に関心を持ち、ニュースに注意を払える問題意識が必要であろう。